



宿南地区自治協議会 10 周年を迎えて

令和 3 年度の自治協議会会長を務めさせていただくことになりました、口三谷区区長の維田浩之でございます。

私は、区長になって、まだ 2 年目の若輩者でございますが、より良い宿南地区の自治活動が進みますよう努めて参りますので、宿南地区の皆様には暖かいご理解とご協力を賜りますようどうぞよろしくお願い致します。

このたび、宿南地区自治協議会がスタートして 10 周年を迎えることになりました。

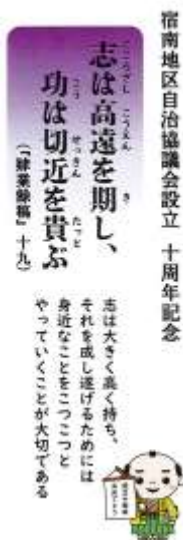
私が、この役に就くまで、自治協議会というものについて、それほど深く考えることはありませんでした。しかし、地域の行事であったり、地域の環境改善であったり、様々なことが、各区長さんをはじめ、この自治協、各部会の役員さんを中心に部会の皆さんのおかげでスムーズに進められてきたことについて、改めて感謝と敬意の気持ちを贈りたいと思います。

さて、改めて、自治協議会の目的を皆さんと確認しておきたいと思います。規約の第 1 条（目的）「本会は、宿南地区に暮らす住民自らが地域課題を明らかにし、地区住民相互の親睦を深めながら連携・協力して、その解決に向けて取組むことにより生き活きと安心して暮らせる地域づくりを進めることを目的とする。」とあります。宿南地区に住んで、「もっとこんなことが出来たら良いなあ。」「こんなふうになったら良いなあ。」等いろいろ思うことがあると思います。でも、思っているだけでは、何も進みませんし、「誰かがしてくれたら・・・」とか期待をしても、誰もしませんし、何も始まりません。まずは、**自らが動く**。とりあえず、一人ででも始めてみることです。一人一人がそのような考え方をすれば、一人でできない時には同じ考えを持った人が集まって協力してできる。それが広がって地域で取り組める。そんな思いを寄せ合えるところが、自治協議会だと思います。

この 10 年を振り返り、これからの 10 年をどのように宿南地区で楽しく安心して快適に暮らしていけるか？地区民一人一人の思いを寄せ合って、自治協議会を中心に実現していくことを祈念致しまして、10 周年記念のトートバッグを一つずつですが、各戸に贈らせていただくことになりました。ご笑納いただくと共に、エコバッグとしてご活用下さい。

なお、宿南地区自治協議会の活動、運営にご協力いただいた地区外のスタッフの皆様にも感謝の気持ちを込めて贈らせていただきますことも、この紙面をお借りしてご報告させていただきます。

宿南地区自治協議会 会長 維田浩之



「宿南地区自治協議会 10 周年を迎えて — 回顧」



私が宿南地区自治協議会（以下「自治協」）会長に就任したのは平成 25 年でしたが、実施した一番大きな事業はといえば、池田草庵先生に関係する一連の事業でした。

草庵先生は文化 10 年（1813）に誕生されました。丁度私が会長をしていた平成 25 年（2013）が生誕 200 年にあたる年でした。

生誕 200 年という記念すべき年、平成 25 年度から 26 年度（この年度の会長は高木経吉氏。私は区長会長の立場）にかけて実施した事業は、池田草庵先生の「銅像の製作・除幕式」に始まり、関連事業として「Tシャツの制作・販売」、「そうあんくんキャラクター・着ぐるみの作成」、「青谿書院裏山・夜気山の整備」、「『モミの木は高くそびえて』の冊子制作・販売」、「そうあんくん踊り・はかまの制作」、そして「そうあん祭り（気球の搭乗体験含む）」の開催等でした。

銅像の製作、そうあん祭りの実施については、養父市社会教育課・区長会・小学校・PTA・青谿書院保存会及び有識者で構成する顕彰委員会を立ち上げ検討しました。

これらの事業を実施するための資金集めには非常に苦労しました。自治協の予算が潤沢にあるわけではありません。予算をあまり使わないですむよう色々な方面に資金援助の働きかけを行いました。その結果、銅像製作は各地区からの負担金及びTシャツ販売利益でまかない、着ぐるみ及びそうあん祭りの経費は市の助成金及び県の補助金で補い、青谿書院裏山・夜気山の整備は整備用機械器具代も含めて全額県の補助金で、冊子制作は冊子の販売代金でまかないました。自治協の自己資金からの持ち出しはあまりなかったように記憶しています。

そうあん祭り等に係る県の補助金を申請するためには、県の推薦するアドバイザーを中心にした委員会を立ち上げることが要求されました。委員には自治協の各部長や諸団体の役員さんたちに集まってもらい将来の宿南地区の進む方向性・計画等を検討する場にもなりました。

これらの多くの事業を実施、実行するについては、宿南地区の多くの方のご協力・ご指導によりすすめることができたこと非常に嬉しく思い、改めて感謝申し上げます。

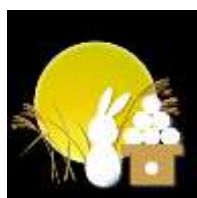
ご存じない方も多いと思いますが養父市は全国 10 数余の市町で構成する「嚶鳴（おうめい）協議会」に加盟しています。「嚶鳴協議会」とは、「ふるさとの先人を生かしたまちづくり、人づくり、心育てに取り組む」という趣旨で作られ、観光資源の対象とされていなかった先人たちなど新たな地域資源の発掘と発信を行うことを企図された協議会です。

自治協としても当時色々な事業を計画する協議の中で、草庵先生・青谿書院が宿南地区の活性化に繋がらないかと検討しました。

他所から青谿書院に来ていただくためには、駐車場の確保やトイレの整備、案内ガイドの養成等が必要となります。又、来ていただいた人に金を落としてもらわなければ活性化には繋がりません。特産農作物・特製の菓子や饅頭の制作、Tシャツ・関係書物の販売等考えましたが、残念ながら具体的な活動までには至りませんでした。

現在は青谿書院保存会が保有されていた全ての土地や建物等が養父市に寄贈され、施設の管理や見学人の対応等を宿南地区区長会で実施されています。管理だけでなく更に地域の振興に役立つような検討をしていただければと願います。

最後に地域の活性化に向けての取り組みは中々難しい課題ですが、草庵先生が学んでこられた儒学は人の学び方や生き方等現在にも通じる、いやIT時代の現在だからこそ役に立つ教えが数多くあります。宿南の生んだ偉大な先人に少しでも学び、より良き人生が送れることを願って、自治協 10 周年のお祝いいたします。



平成 25 年度会長 高木 俊雄

宿南地区自治協議会 10 周年に寄せて



自治協議会発足 10 周年おめでとうございます。平成 30 年度に事務局に新しく宇和野英明さんと池田幸子さんに入っていただき、助けていただきました。北近畿豊岡自動車道につながる避難道路の用地確保については市役所に何回も足を運んでいただきました。

自治協議会の事業については 5 部の部長さんを中心に計画的に推進していただき、事業は順調に実施できました。地域住民の親睦を深めたり、地域課題に取り組むことができました。

自治協議会の役割として安全安心な地域づくりを進めることがあります。そのため市長に要望書を提出することや水害対策の今後のあり方について検討することも課題でありました。市長への要望書の内容として寄宮地区のソゲ田谷堰堤設置、三谷川土砂の撤去、青山川の改修などを要望しました。水害対策は宿南地区水害対策促進期成同盟会会長の川瀬利昭町区長を中心に今度の活動内容について検討し規約改正を行いました。今後も水害対策を継続していくとともに、さらに青山川の改修などにも取り組むこととしました。日々の活動として、青山川樋門を維持管理するため、自治協議会と市との間に青山川樋門管理委託の協定を結びました。自治協は円山川と青山川の水位に留意し、適正に樋門を管理することとなりました。樋門は円山川の洪水が青山川に逆流することを防止する施設です。この樋門は円山川の水位が青山川の水位より高くなれば水圧によって自動的に閉まる仕組みになっていますが、流木等で樋門に障害物が挟まれば樋門が機能しなくなってしまうので、各地区の区長が 6 月から 11 月の間、また台風接近時に樋門を点検するようにしました。宿南地区の皆様にもこういった活動が行われ、宿南の安全を守る取り組みを自治協議会がしていることを知っていただければ嬉しいです。

平成 30 年度会長 池田 哲彦



令和元年度のこと



令和元年度に 2 度目の自治協会長を仰せつかりましたが、この年はいろいろなことがありました。

養父市内にある 18 の自治協議会で構成する連絡協があり、その会長職が宿南自治協に回ってきました。市の人権協働課と相談し事業を遂行するのですが、いわゆる総会と研修会を 1 回実施するにとどまりました。会長あいさつでは宿南のピーアールに努めました。2 度目の研修会では自治協を規模別に組み分けし、情報交換を行い次年度以降の活動に役立ててもらおう計画でしたが、コロナ禍でストップがかかり中止となり残念でした。

8 月には社会福祉協議会主催の研修会があり、宿南自治協に実践事例の発表機会が与えられ八鹿文化会館でマイクを持つことになりました。設立以後の総会資料を中心に、自治協ができるまでのふれあい倶楽部の紹介やガイドなどの資料を見ながら原稿を仕上げました。ふれあい倶楽部は 20 年の歴史をもち、役員さんや多くのボランティアの尽力によって継続的に事業が行われており、その延長線上に今があることを再確認することができました。20 分の持ち時間を余すことなく発表にあてることができたのも先輩諸氏の継続的な努力の賜物であります。

次に元年度の大きな取り組みとして、7 月から「戦略的移住推進モデル事業」—持続可能な宿南地区に向けて—が始まりました。

「フューチャーセッション（未来づくり会議）」では多くの人参加を得て協議する中で、複数のアイデアの中から 4 つのプロジェクトチーム（以下 P で表す）が活動を展開することになりました。4 P とは、①空き家清掃 P ②魅力発信 P ③学びの里宿南 P ④癒しの里山 P のことです。今までの活動状況については、移住コーディネーターの「妄想移住計画書」によって報告がなされています。この事業に関する兵庫県の助成は 3 年ですが、令和 4 年度以降も継続していかなければなりません。これからの地域を担

っていく若い人たちの積極的な参加を期待します。

他にも宿南地区合同の一斉避難訓練を小学校で実施、安全講話に5つの防災訓練の後、非常食の試食会を行いました。協力者含め250名が参加した訓練でした。

こうして、順調に事業が進捗していましたが、新型コロナウイルス感染症が世界的に大流行し、当地区においても感染拡大防止により2月下旬からイベント中止や延期の要請が行われ、3月の初めには学校が休校になるなど、以降の自治協活動に大きな影響が出ることとなりました。2年度、3年度とも大きく制約を受け活動が停滞している状況が続いています。何もせずに済ますことに慣れてしまわないか危惧されます。

コロナの一刻も早い収束を願い、宿南地区自治協議会が目指す「生き生きと安心して暮らせる住みよい地域づくり」が進展することを祈念いたします。

平成28年度 令和元年度会長 西村 正

宿南地区自治協議会 10周年を迎えて

宿南地区自治協議会発足10年、おめでとうございます。

私が宿南地区自治協議会の会長に就任したのは令和2年度で一年間のみのことでした。しかし、この年はこれまでにない大変な年でありました。

今までに経験したことがない様な悲惨な一年でした。

もう、察しておられることと思いますが、この一年は新型コロナウイルスにより計画していた事業はすべてと言っていいくらい中止をせざるを得ない状況の一年でした。

令和2年度は、宿南地区自治協議会の定例行事の中で、密になる行事についてはすべて中止となりとても残念でした。しかし、逆に今まで当たり前のように行事の実施ができていた事がどれほど素晴らしい事であったかも実感しました。

中止となった行事は、宿南地区自治協議会総会から始まり、盆踊り大会、宿南地区運動会、ボウリング大会、村民号等々多くの行事を中止せざる得ませんでした。しかし、養父市一斉避難訓練やクリーン作戦等々密になりにくい行事などは各集落が安全を確保しながら実施していただき大変良かったと思います。

そんな中、令和元年から令和3年度にかけて実施されている「戦略的移住推進モデル事業」は令和2年度が重要な年になります。そんな事もありできるだけ事業を止めないようにとそれぞれの会員が努力して進めていった結果、癒しの里山プロジェクト、魅力発信プロジェクト、学びの里プロジェクト、空き家清掃プロジェクト、それぞれのチームが独自に、新型コロナウイルスに負けない活動を頑張って実施していたように思いますが、新型コロナウイルスの為思ったような活動が出来なく、少し控えめな活動だったように見え、その点は残念でなりません。しかし、それぞれのプロジェクトは確立し、それぞれ独自で事業を進めるまでになっています。

令和3年度は事業最終年度です。今後の活動がスムーズに進められるように組織を確立して頂きたいと思うところです。

宿南地区自治協議会が10年という一つのくくりを経過し、これからが活動の正念場となると思います。宿南地区が「少子高齢化にならないよう」ではなく、今以上に活気ある“まち”であり、「どうしてもここに住みたい」という多くの住人が増える“まち”となることを心より応援します。

令和2年度会長 木下 計介



編集後記

宿南地区自治協議会は、おかげさまで「設立10周年」を迎えました。記念号の発行にあたり、原稿をお寄せいただきました皆様には心より御礼申し上げます。引き続き一層のご支援ご協力をよろしくお願い致します。